

令和7年10月20日

所 信 表 明 書

候補者の職・氏名	現職： 九州大学副学長・特任教授	ふりがな あかし こういち 氏名：赤司 浩一 
<p>（所信）</p> <p>九州大学は、1911年の建学以来、アジアの玄関口である地理的優位性を活かし、地域と世界をつなぐ知の拠点としての役割を果たしてきた「指定国立大学法人」です。西アジアを含む広義のアジアをはじめ、世界各地に多くの卒業生を送り出し、国際社会で活躍する人材を輩出してきました。しかし私たちは今、少子化や財政制約、国際競争の激化、そして地域社会の変容という大きな岐路に立っています。この難局を乗り越えるためには、国の制度を最大限に活かすだけでなく、九州大学自身の強みと課題を見極め、自らの力で大胆に改革を進めることが求められています。私は、日米での研究と組織運営の経験を活かし、九州大学を、アジアを代表する知の国際的創造拠点へと導く覚悟です。</p> <p>私は、九州大学を「挑戦を支える大学」「地域を世界につなぐ大学」「人を育てる大学」として進化させたいと考えています。その実現に向けて、国際的課題や倫理的・文化的課題を視野に入れ、文系と理系が互いに触発し合いながら新しい価値を創造する、総合大学としての使命を胸に刻み大学経営に取り組みます。</p> <p>「挑戦を支える」とは、世界に誇る本学の研究力を更に高め、若い世代が夢を描き、新しい知の獲得に果敢に挑める環境を整えることです。本学が次の時代に向けてさらなる発展を遂げるためには、若手・女性・外国人を含む多様な研究者・学生・職員のすべてが新しい試みに踏み出しやすい環境を整え、その努力と成果を正当に評価する仕組みを構築する必要があります。また、本学が得意とするアントレプレナーシップ・リーダーシップ教育、スタートアップ支援を更に充実させることも重要です。</p> <p>「地域を世界につなぐ」とは、九州・福岡の地域課題を世界的な文脈の中で捉え直し、その研究成果を国際社会と共有し、政策・社会制度などの提案を通じて社会の変革に貢献することです。自治体や企業、地域社会との共創拠点を各キャンパスに展開し、社会課題解決に向けたプロジェクトを推進します。また、国内外の研究機関とのネットワークをさらに強化し、教育・研究・産学連携を一体化した国際的なプラットフォームの形成に取り組みます。</p> <p>そして「人を育てる」とは、多様な人材がのびのびと能力を発揮し、互いに切磋琢磨しながら社会を動かし、歴史に名を刻む「人物」へと成長して行く文化を築くことです。学部段階から世界最高水準の研究や社会実践に関わる機会を拡充し、学生が自らの志を見つけ、社会への貢献に挑む力を育てます。また、グローバル化とデジタル変革を推進し、若手教員が総長に直接意見を届けられる仕組みを設けることで、大学全体の創造性と活力を高めます。伊都キャンパスを中心</p>		

とした交通や生活環境の整備など、キャンパスライフを支えるインフラの充実も重要な課題です。

現在、多くの国立大学は、厳しい財務状況に直面しています。しかし、これは変革の試練であると同時に、大きな成長への契機でもあります。公的・民間双方の資金調達力を組織的に高め、拠点型・国際グラント、概算要求、産学連携、広報戦略、さらには大学債発行などを最大限に活用し、大学全体を俯瞰した戦略的かつ柔軟性に富んだ財務設計を推進します。秀逸な研究から生まれる人材・知的財産・研究基盤など大学の持つ多様なリソースを共創的に活用し、価値創出につなげます。

財務の充実は人事の自由度に直結します。多様な研究者を受け入れ後押しする仕組みを整え、クラスター人事の導入や、有力研究者が定年後も研究を継続できる環境整備に向けて、透明性と戦略性を兼ね備えた制度を整備します。全構成員が教育、研究、人事、社会変革のサイクルを意識し、それぞれの立場で大学の発展に積極的に関わるのが重要です。

九州大学を、個々の志が共鳴し、大学全体の推進力へと昇華する組織にするために、今求められているのは、単なる組織の再編ではなく、既存の枠を超えて挑戦できる環境と文化の醸成です。この「Challenge-Driven Governance」の理念を九州大学の隅々にまで根付かせたいと考えています。具体的には文理を問わず大型プロジェクトの立案・実行において、「両手利きのマネジメント」体制を採用します。執行部に「研究戦略立案チーム」と「統合マネジメントチーム」を設置し、総長がこの二つのチームを統括的に束ねます。挑戦的な構想とその実現化を敢えて異なるチームで検討することで、立案時の自由度を高め、柔軟かつ創造的な大学運営を実現します。

各部局が人事・財務とも健全に機能することが前提であることは言うまでもありません。大学として部局の持続性を守る一方で、各部局は構成員を部局の特性に応じて多面的に評価し、ビジョンを執行部の両チームと共有しながら、十分な時間を掛けて自律的に、部局改革と人材育成を進める責務を負います。重要な決定は対面で深く議論し、部局と執行部とが合意形成を経て進む姿勢を貫きます。

私が愛する九州大学は世界に開かれた知の共同体として未来社会を形づくる使命を担っています。挑戦を恐れず、地域を世界と結び、人を育てる大学へ。九州大学の存在意義が問われているこのクリティカルな局面において、私はこれまで培ってきた経験のすべてを注ぎ構成員と力を合わせて、目的達成を目指したいと思います。